

あれこれ通信

TeL / Fax 0493-62-7997
http://space.tom-shibuya.com
e-mail 713@tom-shibuya.com

渋谷とみ子の議会報告No.77

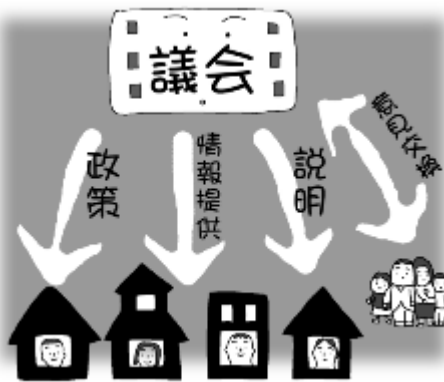
民主的で開かれたまちづくりで持続可能な社会をつくるため、あきらめず、粘り強く嵐山町から声を上げていきます。

昨年12月、国民の多くが不安を持っている秘密保護法が強引に国会で制定されました。嵐山町議会は、法制定直前に、秘密保護法案廃止の意見書を7対6で可決し、秘密保護法案廃止の意見書を提出しました（P4参照）。

福島原発事故後の放射能被ばくで、子ども達の健康が危ぶまれ、世界中から日本発環境悪化が心配されています。が、多くのマスコミは、放射能被ばくによる子どもの健康悪化を報道しません。原発事故は収束できそうにない状況です。しかし、エネルギー計画で原発再開を予定しました。東京オリンピック招致では原発はコントロールされているので安全とし、経済効果があると新国立協議場建設費1699億円を予算化しました。

現実を知らせると不安をあおるという理由で事実を知らせない・見せない政治的動きが加速されています。昨年11月、福島の子供達59人の甲状腺がんおよび疑いが報告されました。今まで小児甲状腺がんは10万人に0.1~0.2人の発症率でしたが、10万人に28.9人の発症率です。遺伝子が損傷されているのです。現実には起きていることに人々に知らせて、国へ対応を求める人を「過激派」扱いをし、異端視し排除する・・・国も嵐山町議会もそのような状況です。甲状腺がんの子どもを救う意見書提出は、9対4で否決されました。（P4参照）

嵐山町議会は、表面は改革が進んだように見えますが、現実とは違います。皆さんは、提案される議案について議員が議論しているとおもわれますか。違うのです。議員は、行政に対して、質疑だけします。議員は、議案の是非・問題点について議論しないのです。そこで、議会基本条例のなかで議会で議案について自由討議を行うことを定め、協議しました。



議会中の議論が本道です。

ところが、会派政友会は、議会を休憩にして自由討議をする案を出してきました。視察した蔵王町は休憩にして自由討議をしている、自由討議は不穏当発言の連発なので、議会の品位にもかかわるため、議事録なしで休憩中に行う蔵王町は現実的で素晴らしいというのが政友会S議員の主張です。

議案に対しての質疑後、多様な住民を代表している議員が議案について、いろいろな立場から自由討議する時、様々な議論がでるでしょう。だからこそ、ルールをつくって、議会中に行うこと・議事録を残すことに意味があります。議会を休憩にし、議事録なしの議案審議は百害あって一利なし。

妥協しません。

2014年の始りは、事実を知り、分析し、対応を考えることからスタートです。